定数改善計画の早期策定・実施と義務教育費国庫負担制度の

堅持及び拡充を求める陳情書

討論要旨　櫻井直樹議員

この定数改善計画というのはどういうものかと言いますと、１つの学級にいる子供たちの人数の定数を改善していこうとする計画のことです。簡単に言いますと、40人学級から35人学級へ、さらには30人学級へと少人数学級を拡充していくための計画のことで、実はもう小学校では毎年１学年ずつ35人学級が進んでいまして、来年度には小学校６年生まで全学年が35人学級になっていきます。

40人学級から35人学級に変わると何が変わるかと言いますと、計算しやすいように例えばある学年の定数、子供の在籍数を120人というふうにしますと、40人学級の場合は120は40で割り切れちゃって３が立ちます。１クラス40人でいっぱいいっぱいの３クラスになりますが、35人学級の場合は35の３倍の105人を、120は超えていますので４学級になります。そうしますと、１クラスの人数も120人を４クラスで割り算をしますと30人ということになります。つまり、１クラスの人数が40人と30人では大きなこれ違いがありまして、一人一人の子供たちにゆとりを持って教育を進めることができるだけではなくて、実は学級数が増えますと教職員の数も増えます。ですから、さらにきめ細かい教育を行うことができます。

しかし、陳情書にありますように、中学校で少人数学級の推進や教職員の定数の改善は現在示されていないんですね。中学校では、現在中１ギャップを解消するために中学１年生だけが35人学級になっていて、中学２年生、３年生は実はまだ40人学級なんですね。これが学校の中で本当に現場では大きな問題になっていまして、先ほどの例と逆のことが起こり得ます。

ちょっと考えやすいように、今年度の中学１年生の人数を調べてきました。旭中学校には257人の１年生がいます。メモされる方は数字を今から言っていきますのでメモしていってください。旭中学校は１年生は257人います。１クラス32人平均の現在８クラスからスタートしています。来年40人学級になりますので、257人を40で割り算しますと四六、二十四、6.幾つになりますから、来年は７クラスになります。つまり、今年は８クラスですけれども、来年は７クラスに１クラス減るという形になります。おまけに１クラスの人数も37人平均になります。なおかつ今年８クラスあった担任の先生が、来年は１クラス減りますので、担任の先生が持ち上がれないというようなことも起こってくる、そういうような可能性もあるということです。

東中でも同じようなことが言えまして、東中はもっとちょっと状況が悪いんですけれども、１年生は285人います。１年生は285人です。現在は１クラス31人平均の９クラスから始まっています。大きい学校です。来年は285を40で割り算しますと四七、二十八、7.幾つになりますから８クラスになります。１クラス減ります。ただ、この285という数字があまりいい数字ではなくて、年度内にもし５人よその学校に転出してしまいますと280になります。この280という数字は40で割り切れてしまいますので、280割る40で７、今年９クラスだった学年が、来年は２クラス減という可能性も出てくるわけです。ですから、東中学校は本当に今年転出者、転校していく子供たちが少ないことを望んでいます。

西中学校は207人で、現在６クラスでスタートしていますけれども、来年も実は207人を40で割り算すると5.幾つなので、６クラスで変わらない、そういうような形になります。

つまり、１年から２年に上がる段階で35人学級から40人学級に変わるということで、学級が減る可能性が出てくるというのが今の問題であります。

そのほかにも、もっともっといろんな問題を抱えているわけですけれども、ちょっとほかの機会でお話をするとしまして、賛成討論の内容としましては、現在、中学校では定数改善計画が示されていませんし、それから国庫負担制度の堅持とか、それから国庫負担の２分の１への回復ということも含めまして、子供たちの教育を充実させていくために、本陳情には賛成という立場で討論をさせていただきます。